

INFORMATION

お知らせ

今後のイベント開催予定です。奮ってご参加ください（詳細はAPIRのホームページに掲載）。

- ▶10月28日 うめきた研究会③「新しい学びのかたちとうめきた」  
講師：鈴木 寛氏 東京大学・慶應義塾大学教授、文部科学大臣補佐官
- ▶12月 4日 APIRフォーラム④「景気討論会」  
講師：稲田 義久 APIR数量経済分析センター センター長 他
- ▶12月 8日 うめきた研究会④「新世代都市とうめきた」  
講師：Carlo Ratti氏 建築家・都市エンジニア、MIT SENSEable City Lab ディレクター

表紙について

『関西経済白書』から書名変更した『アジア太平洋と関西』が書店で購入されている場面をイメージしました。店内の吊り案内や本棚の文字は、本書の内容を示しています。皆様のご購読をお願いします！

活動状況

2015年7月-9月

- 7月 1日 APIRフォーラム「町工場からアジアのグローバル企業へ中小企業の海外進出戦略と支援策」
- 7月14日 「女性は関西で夢を描けるか？鉄は熱いうちに打て」第3回研究会
- 7月16日 GRIPS開発フォーラム・APIR共催セミナー「町工場からアジアのグローバル企業へ中小企業の海外展開戦略と支援策」(東京開催)
- 7月24日 関西労働研究会
- 7月27日 うめきた研究会2015 第1回「新・観光立国とうめきた」
- 7月31日 グローバル人材育成・活用推進シンポジウム「今、問い直すグローバル人材育成-産学官の認識ギャップを超えて」
- 8月 5日 「マクロ経済分析プロジェクト」第2回研究会
- 8月 6日 「東京一極集中の是正と地域における大学のあり方に関する調査研究」第3回研究会
- 8月17日 「交通網の整備拡充に伴う交通近接性の改善と期待できる経済効果の予測」第2回研究会
- 8月27日 「第105回景気分析と予測」、「関西エコノミックインサイトNo.27」記者発表
- 9月 1日 うめきた研究会2015 第2回「次世代産業育成とうめきた」
- 9月10日 APIRワークショップ「課題先進地域関西からの提言-健康・医療産業で成長の加速を」
- 9月12-13日 第18回労働経済学コンファレンス
- 9月16日 米国内務省 日本経済部 ユニタチーフ Aaron P.Forsberg氏との意見交換会
- 9月29日 「アジア太平洋地域の政治・経済的協力のあり方」第2回研究会
- 9月29日 「アジア太平洋と関西-関西経済白書2015-」記者説明会



▶9月10日 APIRワークショップ「課題先進地域関西からの提言-健康・医療産業で成長の加速を」



▶9月16日 米国内務省 日本経済部 ユニタチーフ Aaron P.Forsberg氏との意見交換会

インサイト

- 【APIR Commentary】詳細はホームページへ。
- 7月 1日 No.50 「オーストラリアのAIB参加表明の背景とは」Miles Neale
  - 8月 6日 No.51 「民主主義はベイスるか」林 敏彦
- 【APIR Trend Watch】詳細はホームページへ。
- 7月14日 No.29 「人口減少下の医療介護ビジネス」加藤久和氏
  - 7月17日 No.30 「訪日外国人消費の経済効果 関西各府県への影響の比較:2013-14年」稲田義久、下田 充氏
  - 8月26日 No.31 「日本とオーストラリアのラグビー場の比較 -2019年ワールド・カップに向けて-」森 剛志氏
  - 9月14日 No.32 「MICE的観点から見るユニーク・ベニューとは？」浅岡さおり氏
  - 9月17日 No.33 「データからみた日本とオーストラリアの観光産業の現状」森 剛志氏

編集後記

下妻 博 新日鐵住金相談役のインタビューの中で、人材の流動性をサッカーの攻守入替えに例えてお話しされる場面がありました。下妻相談役はJリーグ創設期、住友金属工業(現・新日鐵住金)で鹿島アントラーズ設立とJリーグ加盟に奮闘されたと聞いています。住友金属工業蹴球団(当時)のJリーグ加盟には相当困難な条件が示されたそうですが、住金側は条件をすべてクリア。同蹴球団は鹿島アントラーズに衣替えしてJリーグに加盟、さらにJリーグ発足後、初の優勝チーム(1stステージ)となったことはサッカーファン

ならご存じの通りです。APIRはそんな豪腕を持つ下妻相談役が設立に深く関わった研究所です。Jリーグ発足から22年経過した現在も活躍を続けるアントラーズのように、APIRも長く活気を保てるかどうかは、今、研究所に関わる私たちにかかっていると言えるでしょう。もう一つ忘れがたいのはインタビュー前の名刺交換でのこと。来訪者のバックボーンをそらじみた上で各自にお声をかけてくださいました。その記憶力とご配慮に頭が下がる思いでした。(真鍋)

APIR Now No.5/2015年10月 [季刊]

一般財団法人 アジア太平洋研究所 ASIA PACIFIC INSTITUTE OF RESEARCH

評議員会会長：井上礼之 (ダイキン工業株式会社取締役会長 兼 グローバルグループ代表執行役員)  
理事・所長：宮原秀夫(大阪大学 元総長)  
理事・副所長・事務局長：澤 昭裕(21世紀政策研究所研究主幹)  
代表理事：榎原則之  
研究統括：林 敏彦(大阪大学名誉教授)  
数量経済分析センター センター長：稲田義久(甲南大学副学長)  
アドバイザー：猪木武徳(青山学院大学特任教授)／鷲田清一(京都市立芸術大学 理事長・学長)

〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 ナレッジキャピタル タワーC 7階  
TEL 06-6485-7692 (アウトリーチ推進部) FAX 06-6485-7689  
E-mail contact@apir.or.jp ホームページ http://www.apir.or.jp



【発行】一般財団法人 アジア太平洋研究所  
発行人：榎原則之  
編集担当：岡田直樹・真鍋 綾 (アウトリーチ推進部)  
本誌に関するご意見・ご感想をcontact@apir.or.jpまでお寄せ下さい。  
本誌掲載の役職名は会合開催当時のものです。  
本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。

☆メルマガ「APIR」配信登録は左記ホームページよりどうぞ!

APIR Now



『アジア太平洋と関西』特集号 関西経済白書 2015

巻頭言 下妻 博  
新日鐵住金株式会社 相談役  
一般財団法人アジア太平洋研究所 評議員

Research Report 関西の経済発展はアジア太平洋とともに  
Economic Forecast アベノミクスの10四半期のうち4四半期がマイナス成長  
Topics  
●「上席研究員」等のご紹介  
●「今、問い直すグローバル人材育成 -産学官の認識ギャップを超えて-」を開催しました。  
●「うめきた研究会2015」スタート!  
Information

表紙写真提供：「姫路市」「伏見稲荷大社」「(公財)大阪観光局」







しもづま ひろし  
**下妻 博**

新日鐵住金株式会社 相談役  
一般財団法人アジア太平洋研究所 評議員

1960年東京大学文学部卒業、住友金属工業株式会社入社。同社薄板第一部長、代表取締役副社長等を経て、2000年代表取締役社長。2005年代表取締役会長。2012年6月住友金属工業株式会社相談役、同年10月新日鐵住金株式会社相談役に就任、現在に在る。2007年社団法人関西経済連合会(2011年4月～公益社団法人に移行)会長(～2011年5月退任)。2011年12月より一般財団法人アジア太平洋研究所評議員。

# APIRは大学を含めた「知の拠点」の主役に

2011年の設立以来、真に独立した中立的シンクタンクとして歩んできたAPIR。4年が経過しようという今、これまでの活動について、APIR仕掛け人の一人でAPIR評議員でもある下妻 博 新日鐵住金相談役にお聞きしました。

## ● APIRはこうして生まれた

2006年、JR大阪駅の北エリアを再開発する「うめきた構想」の中で出てきたのが、知の集積拠点「ナレッジキャピタル」。関西はアジアのゲートウェイであると捉え、それにふさわしいシンクタンクを設けようと、「アジア太平洋研究所」の設立が検討されました。

当時大阪には関西経済界のシンクタンク「関西社会経済研究所」(KISER)がありました。そのKISERと機能統合する形で、2011年12月、「国からも特定の企業からも独立した、真にニュートラルなシンクタンク」というコンセプトを持って、APIRは誕生しました。

APIRは固定的なテーマを追究するのではなく、時代の中で産み出さ

れる流動的なテーマをキャッチし、いかに現実社会に活かすかを研究課題にしています。私たち多忙な経済人に代わり、自主的にテーマを掲げて深く掘り下げるという役目を、うまく果たしてくれていると思います。

## ● 学閥は崩壊。ネットワークの時代に

学閥が崩れつつある今、学界

や研究の世界で必要とされる“役割”とは何か。それは、研究者たちの成果をうまくコーディネートし、組織や機関をインタラクティブにつなぐアレンジャーです。APIRはまさに、その道半ばにあるのではないのでしょうか。例えば、立命館アジア太平洋大学(APU)など大学との研究交流や、アジア各国からのインターン受け入れによる人材育成などです。研究者の“止まり木”として、自由な人材の出入りが叶えられています。

私は、理念さえしっかりしていれば、人の出入りが頻繁でもいいと考えています。良い例がサッカー。ディフェンス、フォワードと選手のポジションは決まっていますが、ディフェンスが攻撃側に転じることもあれば、その逆もあります。そのくらい流動性のあるほうが、変化の激しい今の時代には合っていますし、交流の輪を重層的に広げることができます。

その点では、宮原秀夫所長は適任です。ネットワークの専門家である上、一本芯が通っていますから、人的交流を図りながら、APIRのニュートラルな方向性をきちんと

守っていると思います。

## ● 関西には力がある

日本は東京一極集中が進みすぎている国です。私は国際機関の事務局を関西に置いてはどうかと思っていますくらいです。

その関西は長く地盤沈下が言われていますが、関西には力があります。大阪・道修町に江戸時代から続く薬種問屋の集積を受け継ぎ、今でも関西の医薬品分野は全国屈指です。兵庫県には日本最大の大型放射光施設「SPring-8」やスーパーコンピュータ「京」(けい)があり、学術的バックアップが整っています。それから、中堅ながら世界に誇るすばらしい技術を持つ企業も関西に数多くあります。こういう面にこそ、もっと光を当てて情報発信していくことが関西にとって重要だと思います。

そんな中、APIRは徐々に国内外での存在感を高めつつあります。日本経済・関西経済の今を知りたいという各国の研究者たちが、APIRを訪問し始めています。建前重視の東京では本当の情報を得られないの

で、本音を聞ける関西に意見を求めようという傾向です。

また、ジャカルタには、東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)があり、ダイナミックなアセアンの経済開発を支援しています。今後、そういったところとも連携すれば、APIRや関西のステータスをもっと高まります。

## ● 関西の価値を発信するAPIRに

JR大阪駅の北エリアでは、再開発の第二期がスタートしています。それに向けてAPIRは「うめきた研究会」を企画し、研究者だけでなく、市民を交えて都市機能のあり方などを検討しています。こうした企画は、情報発信として非常に有効です。民を交えて議論することで、開発者の独りよがりを防ぐこともできます。

場を作り、民の力を発信する。それが関西を活性化し、ひいては日本やアジア経済の発展につながります。APIRが今後、大学まで含めた「知の拠点」の主役になることに、大きな期待を寄せています。



日本最大の大型放射光施設「SPring-8」  
(国立研究開発法人理化学研究所 提供)



スーパーコンピュータ「京」  
(国立研究開発法人理化学研究所 提供)



# 関西の経済発展は アジア太平洋とともに

～関西経済白書は『アジア太平洋と関西』に書名変更しました～

APIRが年1回発行してきた『関西経済白書』は関西経済を知るための必読書として親しまれてきましたが、より正確にAPIRの研究活動を反映させるために書名を変更しました。

Part I「新秩序を模索するアジア太平洋」では、2014年版で扱ったタイ、ベトナムに代わって、中国、韓国、フィリピン、オーストラリアについて国別の記述を増やすとともに、米国からインド、オセアニアにわたるアジア太平洋地域で関西経済が果たすべき役割を浮き彫りにしました。

なお、Chapter 2「アジア太平洋各国事情」では、APIRのインターンがそれぞれ出身国について執筆しています。アジア各国出身の若手研究者が在籍するAPIRならではの執筆陣にも

ご注目いただければと思います。

Part II「関西経済、日本のフロントランナーへ」では、まず日本経済および関西経済についての現状報告(2014年度回顧)と予測(15-16年度)を行い、続いて中小企業のイノベーション、高度外国人材の育成・活用、女性の労働力参加の問題を取り上げました。次に最近の事象から見た関西の課題として、北陸新幹線金沢開業と行政改革が提起した問題を分析し、最後に関西の有望産業として、医療介護ビジネス、インバウンド

ツーリズムおよび輸出型の農業を取り上げました。

書名も新たに生まれ変わった本書が、関西そしてアジア太平洋の経済発展を願うすべての方々にご活用いただけるものとなることを願っております。

※大手書店(紀伊國屋書店、ジュンク堂書店他)にて定価2,700円(税込)で発売します。

日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞に記事掲載されました。



表紙写真提供:  
「姫路市」「伏見稲荷大社」「(公財)大阪観光局」

# 『アジア太平洋と関西 —関西経済白書2015—』

## 目次

### Part I 新秩序を模索するアジア太平洋

1. アジア太平洋の政治と経済
2. 各国経済のダイナミズム
3. 日本経済・関西産業との絆

#### Chapter 1 アジア太平洋経済を巡る環境

- ・Section 1 AIIB 構想と中国経済の構造
- ・Section 2 アジアの中間層拡大と経済成長
- ・Section 3 ASEAN 経済共同体、TPP と日本の通商戦略
- ・Section 4 アジア地域の大災害とその後の経済的復興における課題

#### Chapter 2 アジア太平洋各国事情

- ・Section 1 中国《中国の政治》
- ・Section 2 中国経済—不動産バブルの彼方に
- ・Section 3 大不況を脱する米国
- ・Section 4 オーストラリア経済の光と影
- ・Section 5 回復したアジアの病人フィリピン
- ・Section 6 韓国《日韓関係》
- ・Section 7 韓国経済—疲弊社会の進行
- ・Column CLMV 諸国の経済—ミャンマーに焦点を当てて—

#### Chapter 3 強い絆のアジアの産業と日本

- ・Section 1 韓国の自動車・造船業を巡る情勢
- ・Section 2 アジア進出日本企業のマクロ動向
- ・Section 3 アジアで高まる「日本の安全安心」ブランド
- ・Section 4 世界の鉄道ビジネスと日本

### Part II 関西経済、日本のフロントランナーへ

1. 日本・関西経済の短期的見通し：デマンドサイド
2. 関西のサプライサイド
3. 関西の有望産業

#### Chapter 4 日本・関西経済の回顧と展望

- ・Section 1 日本経済：実質所得増が伴う回復へ
- ・Section 2 関西経済、日本のフロントランナーへ
- ・Section 3 関西各府県別の動向：2013～14年度の各府県の回顧
- ・Section 4 「六重苦」を乗り越えたか、関西企業

#### Chapter 5 関西のイノベーション

- ・Section 1 関西の中小企業によるイノベーション
- ・Section 2 高度外国人材による関西の活性化
- ・Section 3 Kansai 50 (ROEの高い優良企業)
- ・Column 「ウーマノミクス」は関西と女性を救うか？

#### Chapter 6 最近の事象から見る関西の課題

- ・Section 1 関西空港に続く関西のPPP/PFI
- ・Section 2 北陸新幹線と関西
- ・Section 3 大阪都構想が提起した課題

#### Chapter 7 関西の有望産業

- ・Section 1 アベノミクスに見る有望産業の捉え方と関西
- ・Section 2 人口減少下の医療介護ビジネス
- ・Section 3 関西が「健康先進地域」となるために
- ・Section 4 インバウンドツーリズムの効果と振興政策
- ・Section 5 日本の農業政策と関西の新しい農業

### Part III 資料編

- データで見る関西 ●関西年表

10月1日に事業報告・関西経済白書発表会を開催しました(参加者102名)



白書の概要発表の後、研究員、インターン、職員も登壇し、「編集後記」と題して執筆時の所感を語り、参加者との質疑応答も行いました。



林 敏彦



稲田 義久



林 万平



木下 祐輔



James Brady



Miles Neale



Tiusonco Jose II



金 賢九



参加者からは「執筆者の顔を見ることができた」、「研究者の国際化路線が目に見え出した」とのお声をいただきました。

## 編集委員・執筆者

- 稲田 義久 APIR数量経済分析センターセンター長(編集委員長)  
林 敏彦 APIR研究統括(編集副委員長)

- 梶谷 懐 神戸大学教授  
木村 福成 慶應義塾大学教授、APIR上席研究員  
三宅 康之 関西学院大学教授

- 木村 幹 神戸大学教授  
三重野文晴 京都大学教授

- 鈴木洋太郎 大阪市立大学教授、APIR上席研究員  
小川 一夫 大阪大学教授  
小川 亮 大阪市立大学准教授

- 入江 啓彰 近畿大学短期大学部講師  
前田 正子 甲南大学教授、APIR主席研究員  
後藤 孝夫 近畿大学准教授、APIR主任研究員

- 北村 亘 大阪大学教授  
加藤 久和 明治大学教授  
下田 充 日本アプライドリサーチ研究所主任研究員

- 林 万平 APIR研究員  
木下 祐輔 APIR研究員  
James Brady APIR研究員(アイルランド)

- 王 天荷 APIRインターン(中国)  
Miles Neale APIRインターン(オーストラリア)  
Tiusonco Jose II APIRインターン(フィリピン)

- 金 賢九 APIRインターン(大韓民国)  
野村 亮輔 APIRインターン  
島 章弘 APIRシニアプロデューサー

- 山下かおり APIR総括調査役兼プロジェクトリーダー  
矢野ひとみ APIR調査役  
辻 俊晴 APIR総括調査役

(役職は2015年8月現在、順不同、敬称略)

## 利用者の声 「こんなふうに使っています」

### 在関西領事館の関係者



本国から関西にやってきた要人に、関西経済の現状を説明するときに使っています。英語版もあるのでとても助かっています。

### 政府系金融機関の関西支店長



私たちが現場で「肌感覚」で知っているミクロ経済の動きが、マクロな関西経済の動きと連動していることに目が覚める思いでした。

### 会員企業(銀行)の関西支店長



久しぶりに関西に帰ってきて、関西経済の「いま」を知る必要があり、真っ先に手に取りました。関西経済を包括的に知るには格好のテキストです。

### 大学関係者



関西経済論の講義で、テキストとして使っています。



## 第105回 景気分析と予測／関西エコノミックインサイトNo.27 アベノミクスの10四半期のうち 4四半期がマイナス成長



APIR内の研究ユニット、数量経済分析センター(センター長:稲田義久 甲南大学副学長)では、日本経済・米国経済そして関西経済の予測と分析を定期的に行っています。

8月27日発表の予測は以下の通り。

(単位%)	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
全国GDP	-0.9	1.0	1.8	0.7
関西GRP	0.1	1.4	2.0	0.7

GDP1次速報値によれば、4-6月期実質GDP成長率は前期比年率-1.6%と3期ぶりのマイナスとなりました。アベノミクスが始まった2013年1-3月期以降、10四半期のうち4四半

期がマイナス成長です。潜在成長率が低下する中、消費増税など外的ショックにより成長率はマイナスに陥りやすくなっています。

関西経済は、ゆるやかな回復局面から踊り場に移りつつあります。先行きは内外需とも弱含み、成長のカギは企業設備投資にあると見えています。

### 超短期モデル(CQM)最終予測とGDP1次速報値がピンポイントで一致!

8月17日政府発表の4-6月期GDP1次速報値は実質GDP成長率前期比年率-1.6%でしたが、これは当センターが8月10日に発表したCQM(超短期経済予測モデル)最終予測(支出サイド)と同じでした!CQMによる予測の精度の高さが示されました。

詳細はこちら  
経済予測: Quarterly Report (日本)  
<http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-ja/>  
経済予測: Quarterly Report (関西)  
<http://www.apir.or.jp/ja/research/asis-economy/quarterly-kansai/>

毎日新聞、読売新聞に記事掲載されました。

## TOPICS

### TOPIC 1 「上席研究員」等のご紹介 ～有力な外部研究者の参画で、より質の高い研究活動を推進します～

APIRは研究ネットワークを活かして下記の方々に「上席研究員」等の職務を委嘱し、自主研究プロジェクトのリーダーやコメンタリー等の執筆、講演会などAPIRの研究活動に様々な形で協力いただいています。

(氏名50音順、敬称略)

#### 〈上席研究員〉

- 青山 秀明 京都大学大学院理学研究科教授
- 有馬 純 東京大学公共政策大学院教授
- 大竹 文雄 大阪大学社会経済研究所教授
- 大西 裕 神戸大学大学院法学研究科教授
- 大野 泉 政策研究大学院大学教授
- 大矢根 聡 同志社大学法学部教授
- 木村 福成 慶應義塾大学経済学部教授  
東アジア・アセアン経済研究センター  
(ERIA)チーフエコノミスト
- 鈴木洋太郎 大阪市立大学商学部教授
- 本多 佑三 関西大学総合情報学部教授

#### 〈主席研究員〉

- 豊原 法彦 関西学院大学経済学部教授
- 前田 正子 甲南大学マネジメント創造学部教授
- 森 剛志 甲南大学経済学部教授

#### 〈主任研究員〉

- 後藤 孝夫 近畿大学経営学部准教授

#### 〈副主任研究員〉

- 岡野 光洋 大阪学院大学経済学部講師

### TOPIC 2

## グローバル人材育成・活用推進シンポジウム

# 「今、問い直すグローバル人材育成

ー産学官の認識ギャップを超えてーを開催しました。



●会場を埋める200名近い参加者

APIRでは研究成果報告とタイムリーな話題をからめたシンポジウムやフォーラム等を開催しています。

7月31日、APIRはグローバル人材育成について産学官の認識ギャップの可視化と課題の明確化を目的として、立命館アジア太平洋大学(APU)と共催でシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、留学生の就職活動の実態調査をもとに、留学生向けの情報提供に焦点を当てた改善策を提案しました。

■開催日 2015年7月31日

■会場 グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル タワーC 8階 カンファレンスルーム

■概要 〈開会挨拶〉榎原 則之 (APIR代表理事)

〈基調講演〉「グローバル化と大学教育」村田 晃嗣氏 (同志社大学長)

〈パネルディスカッション〉

①問題提起1「留学生の活用に関する課題  
ーAPIR・APUの人材育成研究報告からー」

山下かおり (APIR総括調査役兼プロジェクトリーダー)

②問題提起2「元留学生の企業人から見た  
グローバル人材の採用、育成に関する課題」

山本 絹子氏 (株式会社パソナグループ取締役専務執行役員)  
サニヤ・ボグデイチ氏 (株式会社パソナグループ事業開発部大阪チーム)  
バシン・カニカ氏 (株式会社パソナグループ事業開発部大阪チーム)

③パネルディスカッション「グローバル人材育成を  
めぐる産学官の認識ギャップをどう埋めるか?」

パネリスト (氏名50音順)

井上 卓己氏 (文部科学省大臣官房文部科学戦略官)  
鈴木勘一郎氏 (立命館アジア太平洋大学教授)  
村田 晃嗣氏 (同志社大学長)  
山本 絹子氏 (株式会社パソナグループ取締役専務執行役員)  
山下かおり (APIR総括調査役兼プロジェクトリーダー)

コーディネータ

澤 昭裕 (APIR副所長)

■主催: 一般財団法人アジア太平洋研究所 ■共催: 立命館アジア太平洋大学(APU) ■協力: 関西広域連合  
■後援: 大阪商工会議所、一般社団法人関西経済同友会、公益社団法人関西経済連合会、近畿経済産業局、  
グローバル人材活用運営協議会、一般社団法人ナレッジキャピタル、日本経済新聞社大阪本社、文部科学省  
■参加者: 184名

日本経済新聞、産業新聞、鉄鋼新聞に記事掲載されました。

### TOPIC 3

## 「うめきた研究会2015」スタート!

～『うめきたから世界へ』を戦略的に考える～

昨年度、大きな反響を呼んだ「うめきた研究会」。今年度も各界の専門家を招いて公開の研究会を開催しています。

これまでに2回開催、多くの聴講者にお越しいただき、うめきた研究会への関心の高さが示されました。



●7月27日開催「新・観光立国とうめきた」

#### ～うめきた研究会2015～

■主催: 一般財団法人アジア太平洋研究所

■後援: 大阪府、大阪市、公益社団法人関西経済連合会、一般社団法人関西経済同友会、大阪商工会議所

■協力: 一般社団法人ナレッジキャピタル

#### 第1回 新・観光立国とうめきた

開催日: 7月27日 参加者: 135名

講師: David Atkinson氏 (株式会社小西美術工芸社代表取締役社長)

#### 第2回 次世代産業育成とうめきた

開催日: 9月1日 参加者: 90名

講師: 谷井 等氏 (シナジーマーケティング株式会社代表取締役社長兼CEO)



電気新聞に記事掲載されました。

#### 今後の予定

第3回/新しい学びのかたちとうめきた (10月28日開催)

講師: 鈴木 寛氏 (東京大学・慶應義塾大学教授、文部科学大臣補佐官)

第4回/新世代都市とうめきた (12月8日開催)

講師: Carlo Ratti氏 (建築家・都市エンジニア MIT SENSEable City Lab ディレクター)

>> APIRのホームページからお申し込みいただけます。  
<http://www.apir.or.jp/ja/event/>